

一 令和5年度 三本柳小学校 学校運営方針

はじめに 長野市の「第三期しなのきプラン」（令和3～5年度）の方向と、校訓を学校運営の基底として方針をたてる。

長野市 第三期しなのきプラン

◇長野市教育理念 「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」

～全ての子どもたちの「自学自習の資質能力」の伸張」～

○知・徳・体を一体的に育成

①PDCAサイクルの推進 ②ICTを活用した「個別最適な学び」と協働的な学びの推進 ③人権教育・道徳教育の充実

④健やかな心と体を育む教育 ⑤特別支援教育の進展 ⑥学校の多様性と包摂性を高める教育の充実

○教職員の力量向上

○働き方改革の推進

○安全安心な学校作りの推進

○GIGAスクール構想推進

○学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担

○新たな学びの場の創造

三本柳小学校の校訓

◇ 水と緑と陽光に愛され、人のやさしさのわかる子ども

「人にやさしくできる子ども」でなく、「人のやさしさのわかる子ども」である。

たくさん声をかけてもらい、たくさんの愛情のシャワーを浴び、自分自身がエンパワーされ、愛情や優しさの意味がわかってくると、人は人に優しくできるのかもしれない。

一見受け身的な表現ともいえる本校の校訓は、三本柳小学校の教職員のひたむきな努力が目指すところを示している。

令和4年度重点とした、子どもがまた教師自身が、周囲の環境や物事に思いを寄せ受け止めることを基本に、令和5年度は「聴く」という視点を大切にする。

1 学校教育目標

智 仁 勇

<令和5年度 スローガン> 踏み出そう 明日を拓く 新たな一歩

(1) 「智」：いきる知恵

○学ぶ力・学ぼうとする力を培う ○つけた力を生活や社会に生かす ○新しい学びへ挑戦する

<重点1>◇自分で考え伝え合い深める

- ①「教師は教えるもの」という発想から、子ども自身の意欲を引き出すという発想へ転換する。子ども自身も、教えてもらうことを待つのではなく、主体的に課題解決しようという意欲を持つ。
- ②「協働的な学び」を柱とした授業により、子どもが学び方を身に付け、自学自習の力を育む。
- ③「聴く」ことを大切にし、安心して「わからない」を言える関係作り。

- ④自分の考えを持ち、自分で調べ、自己の考えを発信する、互いの考えを交流する方法の一つとして、一人一台端末を効果的に活用する。
- ⑤教科担任制、学年内交流、校外講師等により多様な人との関りの機会を設け、視野を広げ、学びを拡げる。

○自己課題をもった授業づくり ○子どもの実態に合わせた授業づくり、教材研究
○教職員の指導力向上のための研修（特別別支援教育・授業改善・人権教育・いじめ防止等）
○初任研メンター方式を活用した授業研究 ○教科担任制 ○学年学習 ○学年研究

（２）「仁」：思いやり

○互いに認め、高め合う ○相手の話に耳を傾け受け止める ○伝わるあいさつ

<重点２>◇優しい声がけ 伝わるあいさつ

- ①自己の主張を優先するだけでなく、相手の言葉や思いを受け入れる態度を育み、互いの関わりの中で折り合いをつける方法を考えさせる。
- ②他と比較したり、他を陥れたりして自分の価値を高めるのではなく、自分の強みはどんなことか自身に気付かせる。また、同じように持っている周囲の人の良さに気づき、違いを認める中で、高め合っていく。
- ③「あいさつ」の本質を大切にする。元気の良さ、大きな声のみを求めるのではなく、相手に気持ちを伝えることをあいさつの目的とする。
- ④ボスニアとの国際交流の歴史を踏まえ、またルワンダとの交流活動の継続を強味とし、世界に目を向ける国際感覚を育む。

○安心して「わからない」「失敗した」と言える環境づくり。正解のみ、成功のみを求めるのではなく、その次を考えることのできる働きかけを大切にする。

○職員組織としての指導支援 ○状況による支援体制の見直し
○教室以外の居場所の確保、連携 ○栽培活動、小動物との触れ合い

（３）「勇」：心の強さ

○自分で決める ○粘り強く取り組む ○ルールを守る

<重点３> ◇自分と向き合い自分を動かす

- ①係活動・児童会活動・奉仕活動を積極的に取り入れ、学級や学校全体のためになる活動に取り組むことで、有用感を育てる。
- ②集団で学習するための基本的な学習規律の定着を図る。
- ③「自分がされていやなことはしない、言わない」を視点に、人を傷つける言動、いじめ行為は行わない。また、第三者のように見過ごすことなく毅然とした対応ができる態度を育てる。
- ④場を整理し、気持ちよく生活するための清掃を実践する。

○子どもの考えや工夫を取り入れ、有用感を持って行う当番活動
○時間を意識した行動 ○学習ルールの定着 ○ととのえる清掃
○粘り強く最後までやり遂げる態度を育てる。

2 学校経営で大切にしていきたいこと

(1) 人権教育の充実

- ・いじめを防ぎ、笑顔で登校できる学校を目指して、人権尊重の精神を貫いた教育活動を行う。
- ・学校いじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止等の取組を行う。
- ・いじめアンケートによる早期発見・早期対応
- ・いじめの相談があった場合は、教職員は必ず校長・教頭に報告し、学年・係で対応する。
- ・不登校はどの子にも起こりうるものという認識を持つ。病気・けが以外の2日連続欠席は校長へ報告。情報共有による組織対応を行う。

※3日欠席：家庭訪問 5日欠席：支援会議 10日欠席：関係者会議

- ・S C（スクールカウンセラー）、S S W（スクールソーシャルワーカー）等外部の専門家、外部機関との連携を図る。
- ・配慮が必要な児童の気持ちに寄り添い、違いが豊かさとなる学級経営に努める。

(2) 特別支援教育の充実

- ・一人一人の子どもと真摯に向き合い、決めつけずに児童理解を行う。
- ・「困る子」ではなく、「困っている子」という視点を持ち、支援の手立てを講じる。
- ・入級児童、学級内の配慮児童等、特性を持った児童に対して理解を深め、日々の声がけを大切にする。
- ・集団や学習への適応を求めるよりも、子ども自身の意思決定を尊重し支える立場に立つ。
- ・ユニバーサルデザインと合理的配慮への理解を深め、実践する。
- ・職員で情報共有を行う。フットワークシートや個別の支援計画を作成し、成長の様子を残す。

(3) 生徒指導の充実

- ・やらせる指導ではなく、なぜそうする必要があるのか行動の意味を考えさせた指導を行う。
- ・児童理解を全職員で行い、チームで児童の指導にあたる。
- ・具体の課題が生じた際には、全職員で情報共有し、対応に当たる。

(4) 学校・家庭・地域との協働による学校づくり

- ・保護者と連携する学校づくり（グレードアッププラン、授業参観、学級懇談会、学校行事等）
学校・学年・学級だよりの発行、ホームページの更新。本年度は、学級便りを充実させる。
- ・P T A、学校評議員会、信州型C S（コミュニティースクール）運営委員会と連携した学校運営の実施
- ・学校評価の実施（保護者の建設的な提案を学校運営や教育活動にいかす。）
- ・祖父母の会や各種ボランティアとの連携を積み重ね、信州型C Sの取組を推進する。

(5) 「体力の向上」

- ・「体を動かすことが楽しい」という気持ちを重視し、ともに高めあう喜びを感じることができ、生涯にわたり健康を保つための運動の環境を整える。

- ・全校運動を定期的に取り入れたり、児童会活動で「楽しい活動」を取り入れたりし、日常的な体力づくりに取り組む。
- ・体力テストを実施し、効果的な体力向上の取組にいかす。

3 教職員の基本姿勢

(1) 子どもへの関わりの視点 「あたたかなまなざし、寄り添った語りかけ、繰り返しの指導」

- ◇一人一人の子どものよさや可能性を引き出し、伸びる力を一層伸ばすために、誉めて認めて育てる。場をとらえた「声がけ」「励まし」「指導」に心がける。
- ◇「見落とさない」「見逃さない」「見下さない」「見捨てない」を生徒指導の基本とする。
- ◇行為の背景に想いを寄せる児童理解をすすめる。
 - ・児童相談旬間 ・個別懇談 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用
- ◇積極的なあいさつと優しい声がけを行う。子どもに対して「さん」づけを心がける。
- ◇抱え込まず組織対応、全職員で子どもを育む。

(2) 自身の力量向上 「教師自らが主体的に学び自己研鑽に励む」

- ◇自己の教育理念をもちつつ学校の運営方針を踏まえ、自己テーマをもち、自身の強みと課題を明確にして、学年・学級経営や授業実践に取り組んでいく。
- ◇意欲を引き出す学習環境作りを行う。
 - ・魅力的な授業づくり ・本質に迫る教材研究 ・児童主体の活動の充実
 - ・GIGA スクール構想実践 ・発達段階に応じた学年指導体制
- ◇研修を自身の学びの場として捉え、校内研修を行うと共に積極的に外部の研修へ参加する。
- ◇学年教材研究の充実をはかり、指導の充実のために自身の学びを活用させていく。
- ◇指導力向上のための研修（人権教育、特別支援教育、いじめ防止等）

(3) 具体的な取り組み

重点1 ◇自分で考え 伝え合い 深める

(視点)「協働的な学び」につながる、自己のテーマを決める

(目標) *人とつながることの喜び、うれしさを原動力に

*自分で考え、友の考えを聞いて伝え合う姿を

(手だて) ○わからないことが素直に言え、認め合える集団の土台作りをする。

○お互いを大切に活動や場面設定、子ども同士のかかわりの場を増やし、コミュニケーション力を高める

○子どもたちが夢中になって学べる教材づくりを行う。

○成長の姿をとらえ、肯定的な言葉でフィードバックする

○学びの場の工夫 ペア学習、小グループ 座席の工夫 等

重点2 ◇優しい声がけ 伝わるあいさつ

(視点) どの子ども大切にされる学校・教室づくりをすすめる

(目標) *安心して学べる教室環境づくり

*受け止めてもらえる関係づくり・所属感

(手だて) ○「環境」としての教師を意識し、その在り方を考え行動する

○子どもの話のよき聴き手となり、思いを受け止める。どの子の思いも平等に聴く。

○対話を深める。

○子どもの意思決定を大切にし、できるよう見守る。

○保護者と連携し、子どもが困っていることを周囲に相談できるように支える。

重点3 ◇自分と向き合い 自分を動かす

(視点) 主体的な学校生活につながるための、浸りこめる活動を準備する

(目標) *学校が楽しい ～子どもも大人も～

*自らの気づきや思いやりで行動を起こす

*人とのつながりを大切に、相手への想像力 ～あいさつ、声がけ、聴き合う～

*その子らしさの表出、自己決定、自己発信

(手だて) ○押し付けるのではなく、子どもの思いを引き出し子どもと共に活動計画を創り出す。

○子どもに任せる場面を創り出す。

○自分がどうしたいか選択、意思決定できる機会を増やす。

○浸りこめる、夢中になれる活動や時間を計画する。

(4) 三本柳小学校教職員の誓い

○自動車等の運転にあたっては、交通法規を固く遵守し、反社会的行為である飲酒運転を絶対に行わない。見逃さない。

○生徒指導にあたっては、一切の体罰行為を絶対に行わない。

○人権尊重と人間関係の秩序維持の立場から、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントに相当する言動及びわいせつ行為を絶対に行わない。

○公金の管理及び取り扱いにあたっては、横領・紛失・盗難及び不適切な会計処理等を絶対に行わない。

○本校の情報セキュリティポリシーに基づき、不適正事務処理の防止策を講じて記憶媒体等の管理を徹底し、紛失・盗難・流出等による個人情報の漏えいを絶対に行わない。